

宮島観光協会との連携企画展示

「宮島歴史散歩

だいがんじ おおもと じんしゃ
～大願寺から大元神社まで～



令和4年10月4日(火)から12月4日(日)まで、宮島の表参道商店街TOTO宮島おもてなしトイレ2階にある観光情報スペースにて、学生によるパネル展示「宮島歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」を開催しました。

厳島神社を出てすぐ西隣に位置する大願寺から、更にその奥にある大元公園・大元神社までの地域には、豊かな自然に触れながら宮島の歴史や文化を感じることのできる社寺や名所がたくさんあります。

世界遺産「厳島神社」の登録範囲の西地域にあたるこのエリアには、厳島神社の宝物館、宮島歴史民俗資料館、宮島水族館など、学びを深めるための施設も集中しています。しかしながら、この地域の魅力は、観光で宮島を訪れる皆様には、それほど知られていません。そこで、今年度のパネル展示では、この地域の見所を12枚のパネルで紹介しました(右図)。



この展示は、宮島観光協会と共催して実施し、本学で「博物館展示論」を履修する9名(地域文化コース3年生8名、国際文化学科4年生1名)とともに準備を行いました。

学生たちは、何度も宮島に足を運び、自ら歴史散策を楽しみながら、その魅力を掘り起こしました。

学生のフィールドワークや資料の調査研究については、大願寺や宮島歴史民俗資料館の皆様にも

大なお力添えをいただきました。

学生が作成した展示の原案については、本学の教員だけでなく宮島学センター学外協力員の皆様にもご指導・ご助言をいただきました。

また、企画展示の広報チラシやキャプションには、廿日市市立宮島小中学校教諭でいらっしゃる河下添ちどり先生が描かれたイラストやマップを利用させていただきました。関係の皆様には、心より御礼を申し上げます。

菩提院遺跡 石膏の色塗り体験

パネル展示では、菩提院遺跡の出土品についても紹介しました。菩提院遺跡は、廿日市市宮島町上中西町にある、平安時代末から鎌倉時代にかけての遺跡です。現在この場所には宮島歴史民俗資料館の収蔵庫が建っていますが、その建設に先立つ発掘調査により、ここに盛り土を繰り返して平坦面を造成し、屋敷地が営まれてきたことがわかりました。出土遺物は12世紀末から14世紀初頭のものも多く、愛知県産の瀬戸灰釉瓶子(下図左)など、瀬戸内海沿岸を中心に、九州から東海地方に及ぶ地域で作られた製品のほか、中国製の輸入陶磁器も出土しており、宮島が広範な地域とつながっていたことを物語っています。

6月25日(土)には、展示を担当する学生3名とともに宮島歴史民俗資料館の収蔵庫を訪れ、菩提院遺跡から出土した遺物を見学しました。また、同館の順田洋一さんと本学の鈴木康之教授の指導のもと、石膏の色塗り体験をおこないました(下図右)。



学生が石膏の色塗り体験をした遺物の写真は、パネル展で紹介しました。

また、遺物の現物は、宮島歴史民俗資料館の企画展示「宮島の西町」〈10月4日（火）～12月4日（日）〉で展示されました。

展示を担当した学生の感想

今回の企画展示は、厳島神社より西側の地域に着目し、魅力を紹介するというのが大きな目的でした。このため、まずは実際に宮島を歩いたり、大願寺や宮島歴史民俗資料館の方にお話を聞かせていただいたりと、自分たちの理解を深めていくことから始めました。展示の準備を進めていく中で、様々な場所から宮島の長い歴史や文化に触れ、また新たな魅力を見つけることができたように感じます。

「宮島学」の授業で地域文化コースの2年生に今回の展示について紹介したところ、「今まで宮島の西側の地域を訪れたことがなかったが、興味を持った」というような感想をいただきました。

また、展示には広島県内・地元宮島に加えて、北海道から九州まで幅広い地域の方々にもご来場いただきました。アンケートには、「何気なく訪れていたが意味を知ることができて良かった」「展示での説明を見て興味を持った。実際に行ってみたい」等の感想をお寄せいただきました。パネル展を通して宮島の魅力を見つけ、またそこに残る歴史や文化を知るきっかけとしていただいたことを嬉しく思います。（地域文化コース3年生 西森美和）

観光マップの作成

展示の期間中、1,271名の方にご来場いただき、このうち128名の方がアンケートにご回答くださいました。パネル展示の感想として、「写真と丁寧な文章でわかりやすかった。広島在住ですが、知らない場所も多く、また改めて宮島に来たいと思った。」「歴史と現在の観光が組み合わせあった解説でわかりやすい。」などの声が寄せられました。

また、「とてもわかりやすく、興味深かったです。内容をいつでも読みたいので、ホームページや本やパンフレットがあれば、またゆっくり見たいです。」とのご要望もいただきました。

そこで、本展示の内容をさらに発展させた観光マップを2種類作成することとなりました。令和5年3月末に発行する予定で準備を進めています。



令和4年度公開講演会

「宮島の生態系—自然と人との調和—」

11月26日（土）、令和4年度県立広島大学宮島学センター企画展示特別講演会「宮島の生態系—自然と人との調和—」を、広島キャンパスの1175講義室で実施しました。

この講演会は、対面で実施する講演をオンライン（ZOOM）でリアルタイム配信する方法（ハイブリッド型）で実施し、83名の方にご参加いただきました（対面53名、オンライン30名）。

まず、本学の森永力学長が「誰も知らない糞生菌の世界」と題して60分の講演を行いました。



質疑応答の時間には、受講者から宮島に生息する菌類や、鹿の生態に関する熱心な質問が続き、宮島の生態系に関する関心の高さがうかがえました。

続いて鈴木康之教授が、「宮島西地区の歴史と魅力」について、学生によるパネル展示「宮島歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」の内容を踏まえて紹介しました。



フィールドワーク「鷹ノ巣砲台跡探索

～宮島の自然を感じ、戦争遺跡について学ぶ～

11月19日（土）と12月3日（土）には、フィールドワーク「鷹ノ巣砲台跡探索～宮島の自然を感じ、戦争遺跡について学ぶ～」を実施しました。

このフィールドワークは、全キャンパスの学生や教職員を対象として実施し、宮島学センター学外協力員の皆様や、宮島観光協会等にもお力添えをいただきました。



高砲台跡：撮影は畑野康さん



宮島の登山道や戦争遺跡を熟知していらっしゃる横田徹さんと畑野康さんに、鷹ノ巣高砲台跡・低砲台跡をご案内いただき、戦争遺跡の保存と継承の意義について学生たちとともに考えました。

12月3日(土)の回には、森永力学長も参加し、参加者に宮島の生態系や菌類の生息状況、鹿の糞生菌の役割等について現地で解説しました。



包ヶ浦公園内のサルノコシカケを観察 撮影は畑野康さん

令和4年度の「宮島学」関係科目

令和4年度の「宮島学」関係の授業は、学生と直接対面して実施することができました。また、授業の一環として、宮島を訪れ、現地で学びを深めるフィールドワークも実現することができました。

①宮島学

(地域創生学科地域文化コース2年次配当科目)

開講期間：第3クォーター金曜日1・2コマ

授業の形態：対面(最終回は宮島でフィールドワークを実施しました。)

履修学生：59名

授業の構成		
1	9/30	宮島学について 大知徳子
2	9/30	厳島神社の歴史 秋山伸隆 (本学名誉教授・宮島学センター学外協力員)
3	10/7	宮島とICT 宇野 健
4	10/7	宮島のアプリ 宇野 健
5	10/14	平清盛とその時代 鈴木康之
6	10/14	平清盛の経済施策と厳島神社 鈴木康之
7	10/21	厳島神社における舞楽「抜頭」の伝承 柳川順子
8	10/21	厳島神社の舞楽装束 鄭 銀志
9	10/28	『平家物語』に描かれる厳島 目黒将史
10	10/28	舞楽話と日招き伝説 目黒将史
11	11/4	厳島を訪れた人びと、支えた人びと —「石風呂入治記」を中心に— 西本寮子
12	11/4	「孫文」を通して見る宮島 工藤卓司
13	11/11	厳島神社の大鳥居 秋山伸隆
14	11/11	戦争と宮島 秋山伸隆
15		宮島で実施するフィールドワークに振替 大知徳子

第1回の授業では、パネル展示「宮島歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」の企画・実施に携わった西森美和さん(地域文化コース3年生)と、修士論文で宮島を取り上げる河本宗一郎さん(大学院2年生)がゲストスピーカーとして参加し、自身の体験談や研究内容について語りました。

また、第4回の授業では、宇野健准教授のゼミで宮島観光アプリを開発している石坂友彦さん(経営情報学科4年生)が、アプリの内容や操作方法について紹介しました。

第15回の授業は、学期中の土日に振り替え、宮島でフィールドワーク(A～F)を実施しました。履修学生は、下に示す6つのフィールドワークの中から、自身の興味関心に沿うものをひとつ選び、参加しました。

なお、フィールドワークEは、石坂さんが開発している宮島観光アプリを活用して実施しました。

フィールドワーク		
A	11/6 9:30 - 12:00	厳島神社宝物館の見学及び宮島西地区の散策(参加学生11名)
B	11/6 13:30 - 16:00	企画展示「宮島の歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」及び宮島歴史民俗資料館の見学(参加学生12名)
C	11/19 9:30 - 16:30	鷹ノ巣砲台跡探索～宮島の自然を感じ、戦争遺跡について学ぶ～(参加学生3名)
D	11/20 9:30 - 12:00	厳島神社宝物館の見学及び宮島西地区の散策(参加学生12名)
E	11/20 13:30 - 16:00	企画展示「宮島の歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」及び西地区探索、観光アプリの活用実験(参加学生11名)
F	12/3 9:30 - 17:00	鷹ノ巣砲台跡探索～宮島の自然を感じ、戦争遺跡について学ぶ～(参加学生5名)

学生の感想 宮島観光アプリの開発実験

フィールドワークEの西地区散策にて、私が開発したアプリを利用させていただきました。宮島の地図機能を主としたアプリであり、その他にはルート機能やチャット機能など、フィールドワーク学習を支援するための機能が搭載されています。

私は今回のフィールドワークに合わせて、各スポットにおける課題機能を開発しました。この機能は、ただスポットを巡るのではなく、各スポットで3択クイズや写真撮影等の簡単な課題をこなし、スタンプを集めるという機能です。この機能の目的は、「学生の学習意欲の向上」、「学生に知識をより多く得てもらうこと」、「フィールドワーク中の取り組みの評価」以上の3つになっています。

今回参加していただいた11名の学生に、利用後アンケートを実施しました。結果、学習意欲の

向上と知識の取得についての質問では、全員からポジティブな回答をいただきました。このことから、今回開発した機能の主な目的は達成できていたことが判明し、とてもうれしかったです。

(経営情報学科4年 石坂友彦)

②宮島観光学入門（英語）

(全学共通教育2年次配当科目「地域教養ゼミナールA」)

開講期間：第3クォーター（集中講義）

授業の形態：対面授業。宮島でのフィールドワークを2回実施した。

担当教員：馬本 勉、Richard Weber（非常勤講師）

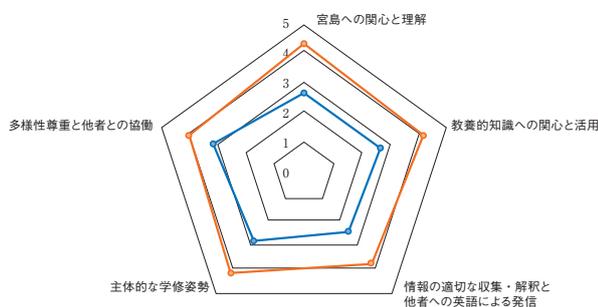
履修学生：6名

授業の構成	
1	10 / 9 10:40 - 16:10 [3コマ] 英語演習 / 宮島についての事前学習
2	10 / 16 10:40 - 16:10 [3コマ] 宮島フィールドワーク (ガイド場所の実地見学)
3	10 / 30 10:40 - 16:10 [3コマ] バーチャルツアー (模擬ガイド演習)
4	11 / 13 10:40 - 16:10 [3コマ] 宮島フィールドワーク (ガイド演習)
5	11 / 20 10:40 - 16:10 [3コマ] フィールドワークの振り返り

宮島フィールドワーク

今年度は宮島でのフィールドワークを2回実施することができました。10月16日(日)は実地見学、11月13日(日)は担当教員を外国人観光客に見立てたガイド演習を行いました。集中講義前後の科目ルーブリック自己評価では、履修学生ひとりひとりが授業を通じた成長を実感していました。(青：開始時、赤：終了時)

科目ルーブリックによる自己評価の変化



ガイド演習の様子(11月13日)

③宮島観光学（英語）

(地域創生学科地域文化コース3年次配当科目)

授業の形態：対面授業。フィールドワーク2回実施。

担当教員：Richard Weber（非常勤講師）

履修学生：3名

授業の構成	
1	11 / 24 ・宮島を知り、厳島神社について学ぶ ・Miyajima Essentials Quiz 1
2	12 / 1 ・オリジナルテキストで学ぶ宮島 (1) ・Miyajima Essentials Quiz 2
3	12 / 8 ・オリジナルテキストで学ぶ宮島 (2) ・What is Shinto?
4	12 / 11 ・Fieldwork on Miyajima (1) —ガイドコースを歩く (3コマ分)
5	12 / 22 ・オリジナルテキストで学ぶ宮島 (3) ・ガイドコースの確認と準備
6	1 / 15 ・Fieldwork on Miyajima (2) —現地でガイド実践
7	1 / 19 ・オリジナルテキストで学ぶ宮島 (4) ・個別報告—ガイド演習を振り返る

オリジナルテキストによる学修

Richard Weber先生のオリジナルテキストで基本を学び、クイズで復習。教室ではすべて英語でしたが、活気があふれていました。

フィールドワークで宮島を満喫

12月11日(日)と1月15日(日)にフィールドワークを行いました。1度目は島内をゆっくりとまわりながらガイドポイントをチェック。受講生はメモを取ったり質問したりと、実践に向けて真剣に取り組んでいました。

2度目はWeber先生を観光客に見立ててガイド演習。最初は緊張気味でしたが、新たな発見に会話も弾み、和やかにすすみました。通り雨の後、大鳥居の向こうに現れた虹に目を奪われました。



1回目 五重塔を望む道にて



2回目 あせび歩道大楠前にて

令和4年度宮島学センター公開講座

廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催して、etto宮島交流館(宮島まちづくり交流センター、廿日市市宮島町412)において、以下の公開講座を実施しました。

第1回「安芸国の漢詩人、平賀周蔵が詠じた宮島遊覧」

日時：令和4年9月14日（水）14時30分～16時

講師：柳川順子教授

受講者：30名

第2回「本願大願寺と厳島—延享年間の経堂修復—」

日時：令和4年12月7日（水）14時30分～16時

講師：大知徳子特命講師

受講者：46名

（実施予定）第3回「平家物語絵画に描かれる厳島の風景—火焼前の灯笼をめぐって—」

日時：令和5年3月1日（水）14時30分～16時

講師：目黒将史准教授

「大鳥居のひみつ」パンフレットの発行

令和3年の発行以来ご好評をいただいている「大鳥居のひみつ」パンフレットの英語版を、令和4年8月に発行しました。このパンフレットは、Richard Weber 非常勤講師による英語翻訳の原案に、天野みゆき教授と Steven Rosen 教授が推敲を重ねて完成に至ったものです。



3年半に及んだ大鳥居の修理工事が、令和4年12月に無事終了しました。今後、広島・宮島を

訪れる多くの外国人観光客や、英語を学ぶ日本人学生の皆さんに、このパンフレットをご活用いただくことができましたら幸いです。

また、中国語版（繁体字版・簡体字版）についても、柳川順子教授と工藤卓司准教授の指導のもと、本学の留学生である劉麗丹さん（大学院2年生）が原稿を作成し、令和5年2月末に発行しました。

全国厳島神社参詣記⑭ 目黒 将史

会津若松飯盛山 厳島神社

住所：福島県会津若松市一箕町大字八幡滝沢155 祭神：市杵島姫命

会津若松市の郊外飯盛山の西麓に厳島神社がある。もとは宗像神社であり、宗像三女神の一人、市杵島姫命を祀る。明治初期、厳島神社に改められた。創建は未詳だが、『新編会津風土記』巻26に、農夫のもとに霊妃が顕れて託宣し、永徳年中（1381

～1384）に創建したという縁起が確認できる。さらにこの縁起には飯盛山の由来も記され、創建の最中、牛に乗った童女が顕れ、役夫に「赤小豆飯」を器に盛り与えて、南に数十歩歩いて消えるということがあった。そのため、この地を「牛墓」、山を「飯盛山」と呼ぶという。飯盛山の由来については、Wikipediaには、「名前の由来は、この山が飯を盛ったような形なので、この名前が付けられた」とあり（根拠不明）、定説はない。

境内に本社の別当寺であった正宗寺の円通三匠堂（通称さざえ堂）がある。正面から入り右回り螺旋状に登っていき、頂上を経て左回りに背面出口に降りてくる。内部には西国三十三観音が祀られ、昇降すると巡礼を終えたことになる。正宗寺は明治の廃仏毀釈により廃寺になっている。

また、三匠堂の近くには三代藩主松平正容によって宇賀弁財天が祀られた宇賀神堂がある。ここには白虎隊19士の像も安置される。現在、飯盛山は白虎隊自刃の地として著名であり、観光客が後を絶たない。合わせて巡っておきたい。（目黒将史）



会津若松飯盛山の厳島神社



宇賀神堂と白虎隊19士の像



円通三匠堂（通称さざえ堂）

研究余録⑭

宮島アプリ開発の裏側

宮島に関するアプリ開発に携わって早6年。一昨年からは古地図とGoogle Mapを用い、フィールドワーク向けのアプリ開発を行っている。元々プログラミングの演習アプリを開発し、授業で使用することで学生の演習の詳細な学修履歴（1文字打つ速度までわかる）を分析していた。これにより学修の結果だけではなく、過程の評価等が可能となった。これを宮島のフィールドワークで応用すると面白いのではないかが、開発の起点であった。

宮島の観光地は行動範囲が比較的限られているため、スポットの登録の手間が少なく済む、検証が行いやすいなどのメリットがあり、当初は順調に開発が進むのではないかと楽観視していた。

しかし開発を始めると、各スポットが密集していて地図上での表現が難しい、精度が低いGPSでの現在地判別が難しい等の問題に直面した。更にサービス開始以来無料だったGoogle Map APIの有料化が始まった。

これはよくあるインターネットのビジネスモデルで、サービスの利用者は無料だが提供者には料金を課すというものだ。開始当初は無料だが、普及すれば有料化するのも典型的だ。逆にサービスが打ち切られてしまうこともよくあり、実際に研究で何度か痛い目を見たことがある。

様々な困難を乗り越え、試作版が完成したが、昨年度の運用実験で予想以上に通信料・利用料金がかかることが判明した。今年度は通信料をいかに削減するかをサブテーマとし、学生との試行錯誤を重ね、数々の実験を経てようやくフィールドワークの本番での運用が実現できた。今回の運用で得た多くのデータを元に、アプリの改善や新機能の開発を行いたいと考えている。(宇野 健)



研究室学生とのアプリの
実地実験

宮島アプリの画面(左:現在の地図でのルート表示 右:古地図表示)

寄贈資料の受け入れ

1 錦絵等 14 点のご寄贈について

日ごろより宮島学センターの活動にお力添えをいただいている赤羽克秀氏より、9月5日(月)、宮島を題材にした錦絵、五雲亭(歌川)貞秀「西国名所之内十九 藝州宮しま」や月岡芳年「豊臣勲功記内宮島大合戦図」等、貴重な作品14点をご寄贈いただきました。心より感謝申し上げます。

本センターの研究・教育・地域連携活動に役立ててほしいとのお厚意をありがたく受け止め、ご惠贈くださった資料について学生とともに研究を進めるとともに、毎年教育の一環として開催して

いる企画展示等の機会に、展示公開する予定です。



月岡芳年「豊臣勲功記内宮島大合戦図」

2 宮島観光ガイド資料のご寄贈について

宮島学センターが開所した平成21年4月より、本センターの活動にお力添えをいただいている横山忠司氏より、宮島関係資料一式をご寄贈いただきました。長年にわたり宮島観光ガイドとしてご活躍になった横山氏は、平成8年(1996)頃からは令和4年(2022)にかけて新聞に掲載された宮島関係の記事や、島内で配布された各種パンフレット、宮島関係の記念切手、ポスター等を収集し、丁寧に整理してこられました。この度、これらの貴重な資料が、氏のご厚意により、まとめて本センターに寄贈されることとなりました。深くお礼を申し上げます。

今後、宮島学研究や、学生教育のための教材として活用させていただきます。

松井輝昭先生のこと

宮島学センター学外協力員の松井輝昭先生が、令和4年10月2日に永眠されました。

松井先生は、平成23年4月から平成25年3月まで宮島学センター長をお務めになり、宮島における調査研究活動や、学生教育に力を入れて取り組み、私たちを導いてくださいました。

平成26年3月に本学をご退職された後は、本センター学外協力員として様々な形で私たちの活動にお力添えをいただけてまいりました。

長年にわたり厳島信仰に関わる研究を牽引してこられた先生の学恩に心から感謝を申し上げるとともに、深く哀悼の意を表します。

編集・発行

宮島学センター通信 第14号

令和5年3月15日発行

県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9534(地域連携センター内)

E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ:

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/miyajima/>